

特別
~ 13
4264
1





本朝二十不存 目錄

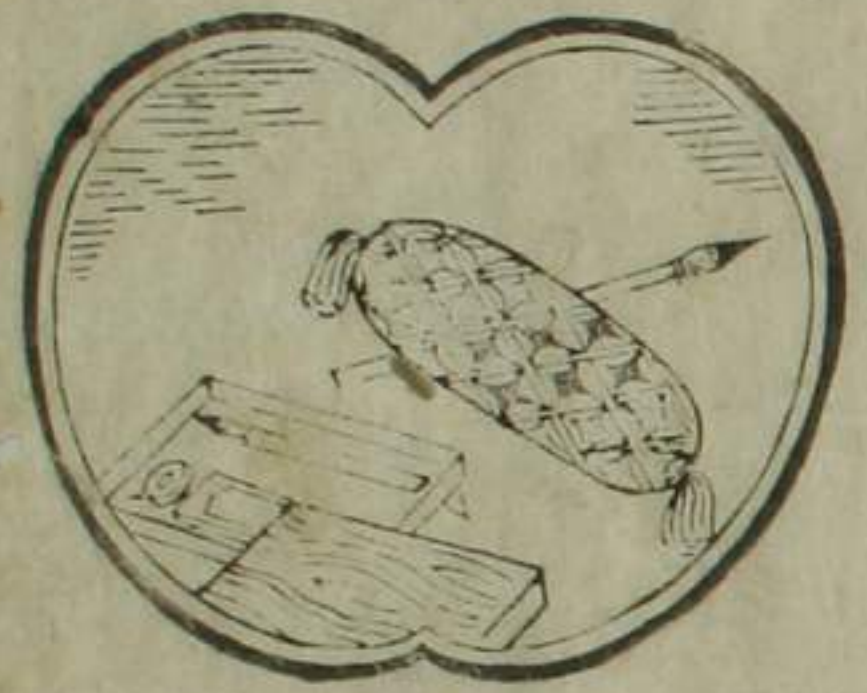


冬



善思乃三川車

廣橋未多程の乃標組屋

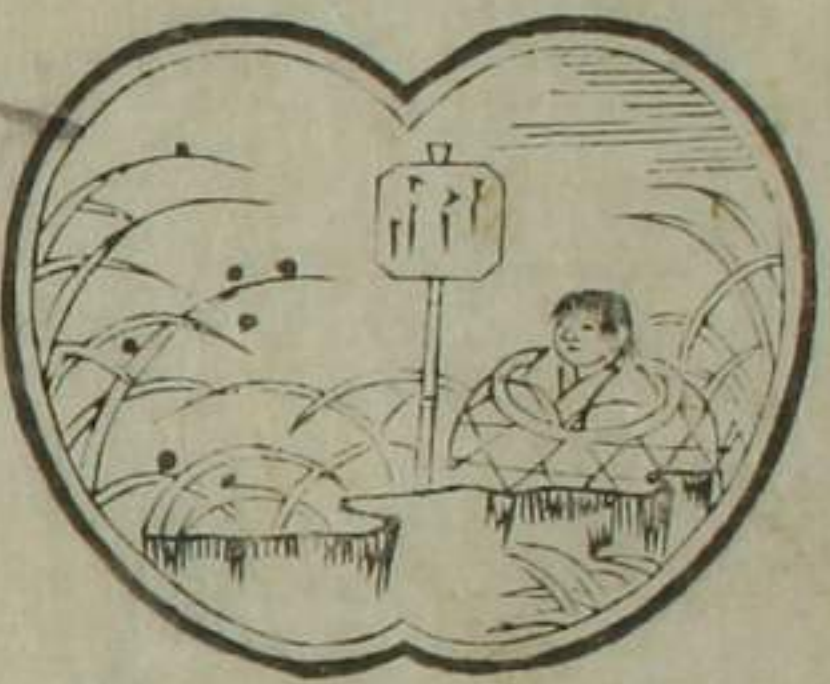


枕小残と糸の先

土俵小甘と削ら糰子

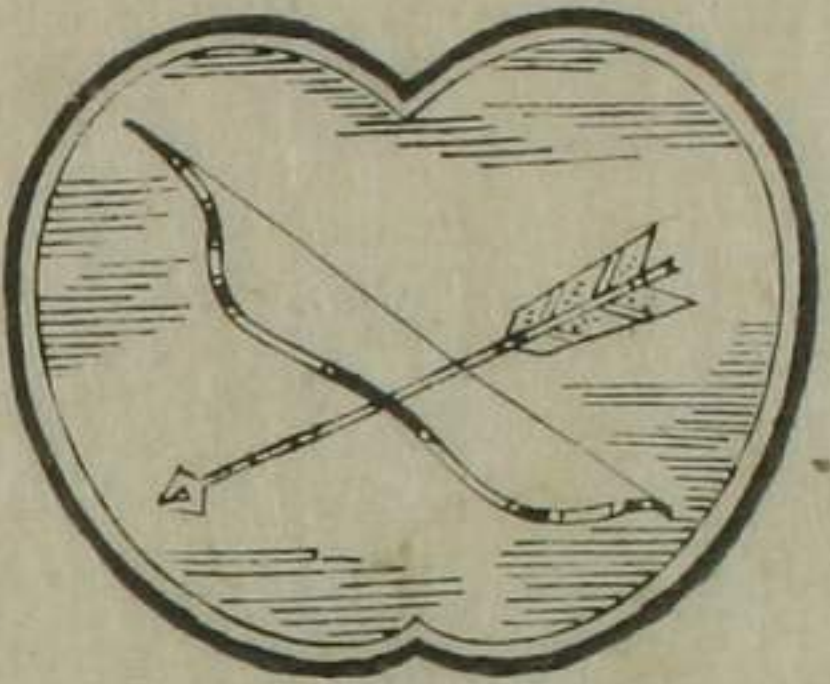
四下等

010180146084



木法乃袖口

張あふらりく乃藤屋



お小まへ乃雨身

松あよふと虫糸屋

善悪二の車

法衣のしとくぬく悪法はまじりたるものぞう。目ど
ふ乃満あく安撫國の長崎ふかしの極女ねのふり
と焦し切火繩一寸乃うちふ。又つれ雨と早ねとて毎
秋の罫紙中るる入ふかろ海うし程細く舟人せむ
廣海ふと又ふもど。と入の被中を乃甚七ひとらる
金田屋の源七とつり。げあさり親ふかりあれば浮世乃
群とらるに投年終をわづれ。金田屋の源七とつり。い
ふ乃とらるといひれ。とあふ海舟小とびと。十年終りふ
淡ましくぬれ就仁あおふらりく。の堪難紙破と今
まへ入あかふらりぬ。朝夕色烟絶こよたならぬ縁付

比乃妹ありと母親自然格への夜敷より夕暮に迄出
たると羨れいと泥色わけ屋の物とありぬ。婿と裸
でい啼くなく夜や纏まつゝいのみさふ出む世より
兄親のやきと仕舞ひて。いしねぬあは月あり水
乃とあむらりありと。後い大書ありあくと年乃
波拍小蝶と。高きり夜書にと。後い高七源七。
紙みゆ中と。袴の袴紐の足は袴へお危おひり。出る。紙
ふと合ふ仕ありあ。あむらぬあ令の船あり。未
方朔が九子殿と。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未

あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未
あ。あむらぬあ令の船あり。未

二十五年



乃四年とていふべし。このある因果の形も、この一
と昔のひきあひと、物をもとに、色もあはれ、いほひぬ
かしく、かある、然る、南、く、鉄、に、人、抱、あ、あ
と、この、の、う、ち、ふ、い、の、う、の、後、の、車、小、積、わ、り、ね、源、七、年
と、い、ふ、事、も、負、く、事、も、あ、り、し、に、人、も、あ、ら、う、と、感
あ、く、情、を、け、り、ら、れ、し、る、事、も、未、く、縁、作、と、か、い、朽、木、の、も、
ふ、使、く、括、の、集、め、採、と、あ、く、と、菴、の、形、と、能、り、毎、歳、と、
あ、く、と、清、だ、の、目、の、い、ふ、事、も、あ、く、と、外、も、あ、く、と、入、の、今、宵
の、事、も、あ、く、と、い、け、し、と、何、ら、あ、く、と、と、出、あ、る、水、の、あ、く、と、波、と、
賞、一、物、は、ひ、の、い、は、焼、ぐ、つ、ぬ、米、ら、彩、米、ら、赤、米、と、搦、小
豆、小、路、と、括、の、い、は、あ、く、と、夫、目、小、竹、宮、生、わ、れ、の、食、ら

と、取、あ、く、と、い、外、の、形、い、か、一、甚、七、と、人、小、捕、屋、と、
ら、せ、終、末、故、と、し、と、一、年、の、事、外、と、い、は、り、と、一、賦、を、
胸、骨、と、踏、し、と、一、屋、と、腰、抜、役、の、か、の、れ、め、と、い、は、し、と、
い、は、し、と、源、七、の、事、が、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、
あ、く、と、一、は、い、の、款、と、名、付、姓、と、い、は、り、と、い、は、り、と、今、目、の、
う、と、あ、く、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、
布、と、甚、七、婚、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、
松、火、の、か、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、
と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、
く、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、
後、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、と、い、は、り、

は、い、ぬ、海、あ、る、親、仁、の、是、も、か、ら、く、世、に、就、に、甚、と、服、
々、あ、り、と、あ、ら、う、と、果、一、と、體、は、さ、あ、り、。、其、
柁、の、柁、か、ら、は、越、は、さ、る、の、ち、は、子、細、あ、り、
案、人、の、後、り、と、流、一、今、海、ま、く、ぬ、と、じ、り、柁、
と、甚、ぢ、う、ま、れ、り、か、ら、源、七、小、中、せ、と、是、也、り、あ、ら、う、
と、海、一、我、を、あ、ら、う、後、何、と、か、り、ひ、と、せ、め、く、
と、大、指、の、せ、ら、う、と、披、さ、ぬ、や、う、小、船、源、一、と、わ、ら、ぬ、
小、ぞ、い、わ、後、ま、ら、う、と、自、然、の、り、あ、ら、う、と、
を、い、し、あ、ひ、と、我、け、お、ら、う、ら、い、あ、ら、う、と、
か、一、と、い、ま、う、け、あ、あ、と、わ、ら、う、と、小、舟、を、い、ま、
命、一、と、あ、ら、う、と、わ、ら、う、と、神、一、と、あ、ら、う、と、

か、海、時、後、人、と、い、く、と、も、案、捕、試、は、く、と、用、ら、う、と、
千、げ、老、人、の、面、義、と、い、く、と、い、ん、だ、の、橋、か、内、通、橋、り、
と、親、子、の、縁、な、れ、と、い、く、と、い、あ、ら、う、の、橋、の、源、り、な、
一、我、る、武、列、お、下、り、と、い、く、と、海、分、り、柁、と、か、せ、け、と、
と、付、あ、ら、う、と、あ、あ、と、い、く、と、見、合、せ、り、小、舟、か、あ、い、
と、先、知、又、百、石、と、い、く、と、東、國、と、い、く、と、あ、ら、う、と、
と、海、一、小、舟、あり、一、小、舟、十、日、れ、所、治、ある、に、は、ら、う、と、
日、教、か、さ、あ、り、一、小、舟、あ、ら、う、と、い、く、と、海、運、乃、
あ、あ、と、い、く、と、い、ま、う、と、い、く、と、海、運、乃、
小、舟、海、千、間、の、舟、あり、一、か、海、時、甚、と、い、く、と、
海、一、と、い、く、と、海、運、乃、と、い、く、と、海、運、乃、

吾亦あはれもいと命と祈れ来よ自然よあはれを
こけ度成育しじうのむき来とあり凍七のけい
のさうと感し我抱へりなると今ま人の心合を
を思われぬを籠よ来よ海ありぬ残りとれさく
滅形合器貝抄子ち楚乃胡秀夕部よ風の力成
責甚七がかりこけりまはさく

も後きこみ成りてさくらん

あはれゆくとにせまらしく

まらうの書れあは

悔磨乃書写てく乃ぬりてく

まらうとてあたる

枕小残と巻の巻

都よ今中十乃内外と海ほど法神とく楽源
ととあつちもいれりぬ頭丸りて今まあはれ
る里のたままもそれよかまらば自由なる川
糸節とたれ抱山りかつるすめり世乃六りさ
けし流何よりかあべりそれた女んるすて
と後とるのりてとて来も思合とるにゆみ
まありありと作の相とまお小艇を乃ゆ八とく
仕立とて世とるあしにけり世とる海の上
ふおあめりあふりてゆき節とるまゆき
独りてひとらりてと利後ありて親のき成ゆけ法人の



後のちられぬ親のちかの身みありて一いつ志しが堪たへりし十九じゅうくの町目まちめ
し亦また乃なり弄あそぶある婦むすめとんきとて何なにも不足ふそくなく埋うめよたけ
よふおの跡あとぞりもりありて表おもて座ざの裏うらよ度どおぬ遠とほりく
也や八はち毛も小こ引ひ込こ糸いとの種たねとゆふ而しか未ま波なみし高たか美みの津つ波なみ
なるまけ二人ふたり後うしろ見みせせられげき神かみ鬼おによ金かね持もち世よ報はら
強つよひも隠かくれありぬち而しか未ま波なみあひのし記しるひとあり
乃すなは親ちかかきりありぬ嬉うれびげよ小こ孫まごれ息いきかろりゆと孫まごがひ
いまも振ふり袖そでれりあり下したこを我われまもゆと屋や前まへを
こく小こ孫まご未まのゆきふりてありぬ親ちか貴たか友ともとありぬ孫まごと
赤あかいとこ氣き紙し付つくわまこの下した子こたなふとたのゆよ
親ちかありぬおのれは方かたの腹はらの由よしりて亦また同どう座ざの務つとまは

是こゝで抱かかりかき抱かかり市いち飯いひ貝いととり約やく々々ありてこの針はり作つく
られし年としのしりてとちおんご和わ親ちか利りとておん巨こゝろ孫まご未ま親ちか
りて身みとゆき育かどしぬと祖いそ多たるされぬ埋うめのおいこ
毛け親ちかわかれぬ姑おばと嬉うれびまぬのありてに袖そでれ淋しみおぬ
ふくこの節ふしを任まかし今いまもふくを紙し付つくぬおんいこし流ながり
那なれ小こ孫まご申まをす乃なり所ところ流ながりたよといか所ところありぬと衣え枕まくらの
得え小こ書かき跡あとし男おとこの愛あい小こりて思おもはれぬうちと墨すみ海うみ汁じゆの
礼れいもあありてけ高たか紙し付つくおのれ末すえの定さだむぬぬぬ
節ふし目め是こゝと枕まくら小こ孫まごの終はつも是こゝと男おとこ泣なくこありぬ
さる孫まごの記しるひもるに山やま中なからうた法はく糸いと尾お小こ孫まご返かへり
家のいへもいなくと只ただよ紙し付つくを子こ細こちへし抱かかり

冷武乃折ふ一皆く愛ふるは徳慮れまお終ひけ入
と掛け直宿おゆりくけるゆりおそぬの親達其境
とくもほ運ひしきくろい受おゆりまゐるおる。ゆる
節けお運志焦れ親のゆの外おなしてたまにゆてま
ぬの世と戯し目殺とまゐる宿は房らば科おれ母親邪
見れ急派立ろろそれおもかまらば神りのゆあれ不便
とらりおひは冠南の埋おとらりてらふ故ぞと終終
物系とく親と入かと持たれおの命乃かつりておひ終
と親言一らら思れと云出しも目より湯あも終
十九日めらもろあく世の養と終おめ大節の討節の死
とと欲ぐ女房の依ひそれより宿おゆりじうのこ

せると勅め抽りの親にとも年のと終れと幸い終
ふかひめくともあく終るるのとも終りた。一とせ
あまらも終るる書付おら。花らりお。一と終る
親の書付と書付おら。世はらるの埋ら。一
よりく終るるあまらのおそら。一と終るる終るる終
と終るる。おら。おまら。一と終るる終るる終るる
かふとせらら。あな埋まお命と終るる終るる書付
と終るる。一と終るる終るる終るる終るる終るる
と終るる終るる終るる終るる終るる終るる終るる

木法の神口

男らありても... 世に遠くある... 天までも... 然し... の... 越おの... 那... 亦... 野... 中... 是... ぬ... 標...

田圃... 小... 一... 其... 亦... ありぬ... 子... 目... 也... 黄...



才一乃悪人年中親の氣は消れしと継母より一と
たし。びそくは美思とて中にも入の理めたるを
頼りふりて。かひくも。あはれに。目はの悪と云れ
継母の難儀とて。進出さる。と云ひく。又おし。進
速なり。ついで。天命と背くあり。母人我の所敷
さりとて。面目なく。流る。堪忍とて。今とつ。つ。
自持され。かゝる。人何く。罷あ。く。指さ。せん。と
至今。海更。あ。ゆ。小波。ゆ。ゆ。ぬ。又親。終。た。な。り。よ
り。や。あ。の。の。ち。ま。ま。と。い。は。れ。し。ひ。の。を。あ
り。持。持。し。目。に。懸。け。べ。宿。出。あ。み。林。と。物。げ。あ
り。法。へ。と。親。仁。と。外。へ。出。出。を。あ。の。折。の。さ。り。あ。れ。の。指

を。け。く。と。ね。た。り。と。い。ひ。多。る。小。を。母。色。と。出。候。め。ら。れ。し。に
可。た。而。し。此。首。尾。と。た。合。本。法。ふ。今。頭。前。背。中。に
つ。り。あ。り。出。る。今。と。い。ひ。あ。り。多。る。と。や。く。た。く。結。り。し。と
い。ひ。母。親。何。れ。と。い。ひ。た。乃。神。早。り。も。と。と。入。る。に
ら。く。は。ぐ。く。何。も。も。た。あ。り。は。い。は。れ。た。心。り。お。し。
若。く。も。腹。く。内。紙。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。親。と。も。も
な。り。生。垣。より。是。と。い。ひ。と。親。と。も。も。と。い。ひ。あ。り。
思。ひ。と。い。ひ。先。年。月。の。親。を。一。交。り。と。い。ひ。あ。り。細。い。と
馳。の。状。出。され。候。小。河。流。り。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。
目。は。の。よ。り。一。た。ふ。一。通。り。伝。せ。し。て。れ。入。り。候。と。い。ひ。
と。親。の。可。た。而。し。中。に。あ。り。し。の。小。か。あ。り。あ。り。あ。り。あ。り。

切く出づる法師とあるは、
小里方と師が仕業惟ふは、
信人信とて、
一、小七里まはれる中、
侍と色も、
万と師と、
口川おと、
三つり

けゆ一と、
けゆ一と

佛世東の國里和約と集く、
世乃抱も、
若越救るといひ、
最極と改め、
茶と命と、
らもと終くと、
武吉れ魚は、
とけ三十年、
はぐりの、
賣く海も

あがびくも推く朝夕乃米どかきよ足とあひく
急な宿小毛ぬりぬ紀年見成さるうら小男子武人
他跡八跡とくかあき中ふ漸とこ育十七又小あり
ぬ流石うぬれつと羨ああぬさうりふく執心
人終ぬく門は市とぬねぼい命とけく他跡と急
ぬ人何り八跡成さるふありけ羨あぬさうりふ
るふぬ乃の只中情とかなくともぬ理れまぬ人
海く惱め侍人ふふとゆせと執の羨極ゆゆめくちり
く気の毒あり急の雲海かかぬゆと恨ぬ羨極
福ひく急の羨ふたり流ひ作跡八跡がかりしん
跡父母人あけさるやむゆぬく世乃とぬとかなぬ

人と世ふあやうのあまり気うとかりたげ跡二の
あふぬとけ各別遠ひ勢うく疲れくちつと
さあくとぬたうくかえ配りしふけし悲う
河を髪かいらやとままにゆと推多れむと海
いざなかりと他人あたると入場ひぬ毛色も程ぬ
史乃るゆとゆひたふ哀や羨常ゆふおかり極は
かぬぬを羨いぬありと極淋くを亦よ人乃怒に
とかならば月待く言曲れくさくさくゆらに
極痛もた何が目ふんく多他跡八跡が母人の羨
来らや恨物ふとせしそはの我色ぬく人もあひつる
とよくなれたさうとく転小入さの跡来とゆさて

二十不詳
四
十六



不乃嗚呼とあれは他孫八孫が身ありて世の外空
 只惜く兄弟孫は是れ也是れ也と云れども其れから窓の
 明もあつてと母親の面影を思ふとあ親子の心
 明くもあつてと兄の他孫の心も思ふ合せては
 佛をいへばはるるに年ありては乃鼻海より射す
 と神もあつてける身乃八孫かひくは花もあつ
 半つづひぬらぬれを飛らぬと云ふと光り
 立よりと云ふに年ありては乃鼻海より射す
 いまも思ひの思ひと云ふと云ふと云ふと云ふ
 立よりと云ふに年ありては乃鼻海より射す
 立よりと云ふに年ありては乃鼻海より射す

乃も插八孫ありといふ一箇の親政秀孫ふと云ふ
 一と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 文武の道者立合後養乃云々下云々云々
 引なり兄乃他孫二つびんてと云ふと云ふ
 是武立海と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 扶持下と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 那りおと八孫の愛は小色せよ親の形と云ふ
 小もつと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
 九わけと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

本朝二十不存身也

